



いあつて

センター長 矢田裕介

熊本地震の発生から二年に差し掛かろうとしています。被災された方々においては、生活再建に向かう人と、なかなか再建の目途がたえない人との「はさみ状格差」が目立ち始めています(図1)。はさみ状格差とは、災害による心理的ダメージから回復できる人と回復できない人との格差が時間経過とともに広がっていくことで、阪神淡路大震災でも東日本大震災でもみられた現象です。上の刃先のルートに乗るか、下の刃先のルートに乗るかの分かれ目は、やはり生活再建です。そして、刃先の角度を広げるのは孤立感であり、狭めるのは支援の実感 (perceived social support) であらうかと思われま



図1. はさみ状格差

いまだ、四万人余の方々が仮設暮らしを余儀なくされていますが、六割が仮設延長を希望され、四割が仮設退去予定との新聞報道等がなされています。生活再建を果たし、仮設を退去される方々が増えることは、われわれ支援者にとっては喜ばしい一方で、はさみ状格差の急速な進行が懸念されます。仮設に残らざるを得なかった方々に対しては、これまで以上に手厚い支援が届けられなければならぬと考えています。

### 熊本地震とこころのケア フォーラムを開催

平成二十九年十二月十七日に、地震直後から子どもとこころのケアに携わってきた「熊本県子ども未来課」との共催というかたちで一周年記念フォーラムを開催しました。



講師には、兵庫県こころのケアセンターの亀岡智美副センター長兼研究部長をお迎えし、「災害復興期の家族支援」の演題で基調講演をしていただきました。阪神・淡路大震災の経験から復興期の精神保健に重要なこと、支援の実際のポイント等について、示唆に富んだお話を伺うことが出来ました。



午後からはふたつの分科会に分かれ、分科会一「子どもとこころのケア」について、分科会二「熊本地震とこころのケア・創意工夫」ということで、医師、臨床心理士、保健師をはじめ被災された方々の支援に直接携わっている方々から今日までの取り組みについて総括的な報告がなされました。地域支え合いセンター、市町村、保健所、病院等々それぞれがそれぞれの持ち場で、暗中模索の手探り状態からのスタートでしたが、試行錯誤を繰り返す中で生まれてきた創意工夫の数々に、「熊本版こころのケア」が少しずつでも結実しつつあることを予感させるひとときとなりました。手厚い支援を実感してもらえ日々を指して、二年目の春を迎えております。



こころのケアセンターは、23年前の阪神・淡路大震災後に初めて作られました。関西一円から志を持つ者が集まり活動を始めてみたものの、何をすればよいのか、誰と連携すればいいのかなど全く分からない状況でした。議論を重ねて、とにかく思いついたことをやろうという方針を決めましたが、1年後の活動報告書のサブタイトルは「手探りの1年」でした。当時のスタッフの偽らざる本音だったと思います。大災害後の支援活動は、試行錯誤の連続です。創意工夫を重ねながら、地道な活動を展開していくことが必要になります。熊本の皆さんの健闘を期待しています。

兵庫県こころのケアセンター センター長 加藤 寛

熊本地震により被災された全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地を歩けば、いまだに壊れた家屋等が目に飛び込んできます。中長期派遣保健師として活動する中で、初めて知ることがいっぱいありました。本当に多くの方が「今」という現実と向き合っていて、必死に踏ん張ろうとされています。一人で抱え込まないで、辛かったら辛いと言ってほしいと思います。こころのケアの一員としてそうした方々に少しでも寄り添える人間でありたいと思います。

益城町/福岡県八女市からの派遣保健師 平松 悦子

### お陰様で熊本こころのケアセンターは 開設1周年を迎えました！！

熊本こころのケアセンター開設1周年おめでとうございます。日頃より被災された方々のこころのケアに熱心に取り組まれており、私たち西原村地域支え合いセンターも大変お世話になっております。相談できる場があるというのは、とても心強いと感じています。それは被災された住民の方だけでなく、支援者へのケアにも対応していただいていることが一番の理由です。

先日は小森仮設団地の集会所で「認知症の正しい理解」というテーマで講話をしていただきました。色々な形で携わってくださることに感謝申し上げます。

西原村社会福祉協議会 地域支え合いセンター 後藤 由香莉

熊本こころのケアセンターは、地震から半年後に保健師2人態勢でスタートを切りました。兵庫や東北など他県で出来るのか、桑村主任と共に悩み、話し合いながら一つずつ歩み進めてきました。まずは電話相談から開始しましたが、今ではスタッフも充実し様々な活動が展開されています。今後もこころのケアセンターのますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

開設時スタッフ 保健師 古賀 郁



#### 活動実績

平成28年度  
(H28年10月-H29年3月)  
被災者支援 363件  
支援者支援 119件  
人材育成 6件 (311名)

平成29年度  
(H29年4月-H29年12月)  
被災者支援 960件  
支援者支援 662件  
人材育成 53件 (3,132名)

春の匂いはもうそこに立っている...  
(彩)